

ブラジル「空飛ぶ車」の開発前進 米ユナイテッドが出資

2022/10/20 2:00 | 日本経済新聞 電子版

NIKKEI
BUSINESS DAILY
日経産業新聞



eVTOLは乗客4人が乗れる仕様だ=イブ・ホールディング提供

ブラジルのイブ・ホールディングは開発を手掛ける「空飛ぶ車」の実用化で前進する。このほど、米航空大手ユナイテッド航空から1500万ドル（約22億円）の出資を受けた。両社は電動垂直離着陸機（eVTOL）の開発で協力する計画で、2026年の商用化に向けて弾みをつける。

「9月上旬に資金調達を完了した」。イブの広報担当者は日本経済新聞の取材で明らかにした。同社はブラジルの旅客機大手、エンブラエルが20年に設立したスタートアップだ。5月にはニューヨーク証券取引所に新規株式公開（IPO）を果たし、上場時には3億7700万ドルを調達した。

乗客4人が約100キロ飛行

イブのeVTOLはパイロットと乗客4人が乗れる仕様で、飛行距離は約100キロメートルを想定する。今回の提携に伴い、ユナイテッドは200機を購入し、さらに追加で200機を購入する権利も持つ。

ユナイテッド航空ベンチャーズのマイケル・レスキネン社長は声明で「最先端技術に早期の投資で、航空産業における持続可能性と革新で指導的な役割を果たす」と強調した。

イブのアンドレ・ステイン共同最高経営責任者（CEO）は「ユナイテッドによる投資は北米市場での我々の製品とサービスへの信頼を強化する」と指摘した。

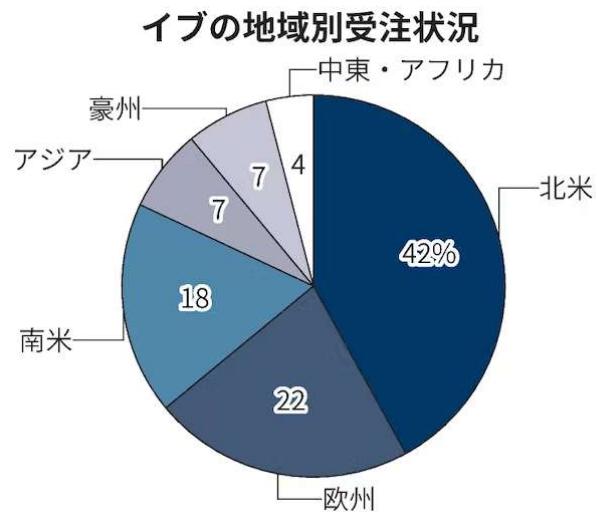
イブは9月半ばから、ユナイテッドが本社を置くシカゴ（イリノイ州）で、ヘリコプターを用いた飛行ルートの実証実験を実施した。北米では初めての試みとなる。イブの担当者は「利害関係者の様々な意見を集めて、最も良い解決策を提示できるようにする」と話す。

イブのeVTOLの受注（公表ベース）			
時期	企業名	国	機数
21年6月	ヘイロー	英国	200
	エリスル	ブラジル	50
	スカイスポーツ	英国	未定
	ブレード	米国	60
7月	フラッペル	ブラジル	25
8月	アセント	シンガポール	100
9月	ヘリパス	フランス	未定
	ブリストウ	英国	100
10月	アバント	ブラジル	100
11月	ヴィデロー・ゼロ	ノルウェー	未定
12月	ナウティラス・アビエーション	豪州	10
	シドニー・シープレインズ	豪州	50
	スカイウエスト	米国	100
	リパブリックエアウエイズ	米国	200
	アゾーラ	米国	200
22年1月	ファルコ	英国	200
2月	マイクロライト	豪州	40
	アビエアー、ヘリスピリット	豪州	50
3月	グローバルx	米国	200
6月	ファルコン	UAE	35
	ファハリ	ケニア	40
7月	BAEシステムズ	英国	150
9月	ユナイテッド航空	米国	400
	フライブレード・インディア	インド	200

10カ国から2千機超受注

イブは8月に公表した決算説明資料で、10カ国の22社から合計2060機を受注したとする。売り上げ規模は55億ドルに達する。同社は「どの顧客も受注の1割以上を占めてはいない」と、受注のバランスの良さを強調している。地域別では北米が42%、欧州は22%、南米は18%だ。

商用化に向けて、開発投資は膨らんでいる。22年1～6月期の最終損益は2128万ドルの赤字だった。足元の時価総額は約22億ドルで推移している。



2月にはブラジル連邦民間航空庁（ANAC）との間で、機体の安全性を認証する「型式証明」の手続きを正式に始めた。

ユナイテッド航空は21年2月、米電動旅客機スタートアップのアーチャー・アビエーションとの提携を発表した。同社は24年にeVTOLの商用化を目指し、ユナイテッドは最大200機購入する計画を示す。投資額は10億ドルの見込みだ。ユナイテッドは8月には、機体を受け取る前に100機分の代金の一部として1000万ドルを前払いした。

ユナイテッドは50年までに二酸化炭素（CO₂）など温暖化ガスの排出をゼロにする目標を掲げる。バイオ燃料など「持続可能な燃料（SAF）」の利用も進める。eVTOLを手がけるスタートアップとの提携はこうした戦略を前進する狙いもある。



ユナイテッドは200機の購入予約を結んだ=イブ・ホールディング提供

欧米との競争を優位に

米金融大手シティグループはイブに出資したユナイテッドの評価について「わずかにポジティブ（肯定的）だ」とリポートで指摘した。「ESG（環境・社会・企業統治）の意図では好ましい」と評価した。

イブの拠点があるブラジルでは、富裕層の移動手段としてヘリコプターがよく使われる。eVTOLは電動のため、ヘリよりもCO₂排出量を減らせる。脱炭素の機運は世界的に広がっており、将来はヘリに代わって活用が広がる可能性がある。各国企業からの早期の受注を固めることで、欧米の競合との競争を優位に進めていく考えだ。

ANACによると、ブラジル国内のヘリコプターの台数は21年時点で2152機だ。最大都市のあるサンパウロ州（639機）や観光の盛んなリオデジャネイロ州（386機）で約半分を占めている。

（サンパウロ＝宮本英威）

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.